

歩行者・自転車専用道路

技術概要

歩行・自転車利用の促進のための道路や各種施設を整備することによって、歩行・自転車を独立した短距離交通手段として有効に活用させることを目的にしたもの。大きくは、自動車から独立した歩行・自転車走行空間である歩行者専用道路・自転車レーンと駐輪施設から成る。

自転車レーンは、車道に沿って、道路の一部を自転車のための自転車専用空間として設置するもので、ラインや自転車のマークによって、車道や歩道と明確にしきられたものである。

新都市での導入効果について

歩行・自転車利用環境の向上により、歩行・自転車利用が促進し、従来の都市において自動車等によって行われている短距離トリップの低減が期待される。

導入における課題（対応策）

駐輪場の配置・運用方法や都市計画面での対応を含め、利用しやすい交通システムを構築することが課題。

歩行者・自転車の利用に関して総合的に検討するマスタープランを策定する。

その他（導入状況・技術開発等動向・将来見込み等）

オランダやドイツ、デンマーク等の自転車利用先進国では、自転車利用に関して総合的に検討するマスタープランを策定している。

注：各種資料により(株)エックス都市研究所作成